

公益社団法人 日本文藝家協会

平成 27 年度事業報告

【 概要 】

平成 23 年 4 月 1 日に、社団法人から公益社団法人となって 5 年の活動が過ぎた。この間、財務の安定化を図るため、赤字予算を実質予算に切り替え、事業別コストの見直を図り、大幅な削減を実行してきた。結果、現在は月次報告による財務管理のできる体制を維持しており 5 期連続の黒字決算とすることができた。また、当初別立て予算を組んでいた著作権思想普及のための情報発信事業については、創立 90 周年事業と統合することとし、予算支出が抑えられた。

著作権者および著作権許諾事業団体としての活動は、今期はとくに TPP 交渉の行方やオーファンワークスの海外事情など、今後益々、他の著作権団体とも連携が必要になると思われる課題についての討議の場が広がった。関係官庁はじめ関連施設との交信、交流が活発な一年だったといえる。

文学ファンや文芸愛好家のためのイベントも、複数の理事からの協力のもと、より多角的な内容での企画が実現できた。

各事業の報告は以下の通りである。

公益事業 1 普及事業

1 講演会等事業

1) 文芸および著作権に関するイベント

今期は、事務局で開催している文芸トークサロン〈しゃべりたい、話したい〉に加えて、協会理事や会員を中心に活動する「脱原発社会をめざす文学者の会」と共催して新たに「文学サロン」を、また歴史時代作家クラブと共催しての会も生まれた。いずれも作家らが自作や長年のテーマについて語り下ろしたり、対談や対論形式、ネット配信など企画ごとにかたちを工夫してすすめることができた。

「文芸トークサロン」

【第 33 回】5 月 9 日 “小さな文字の中にある物語” 知っておきたい書体デザインの話
ゲスト 鳥海 修 (字游工房代表) 共催 出版UD研究会

【第 34 回】9 月 18 日 “似ている英語 どう違うの?”

ゲスト おかべたかし (作家・ライター) みねまいこ (歌手・日本女子大講師)

【第 35 回】10 月 24 日 “対論 ヘイトスピーチと政治の右傾化”

ゲスト 中沢けい (作家) 中野晃一 (上智大学教授)

【第 36 回】1 月 28 日 女流作家の“強み”と“弱み” 共催 歴史時代作家クラブ

ゲスト 藤原緋沙子 (作家) 伊多波 碧 (作家) 進行 岳 真也 (作家)

「文学サロン」 共催 脱原発社会をめざす文学者の会

Vol.1 11月25日「「永遠の都」の創作」

ゲスト 加賀乙彦（作家）

Vol.2 2月22日「チェルノブイリの祈りとノーベル文学賞」

ゲスト 川村 湊（文芸評論家）

2) 文学碑公苑・講演会

第15回となる、「文学碑公苑」での秋の講演会は9月10日に開催。事務局員6名、貸切バスで一般文学ファン41名と富士霊園を訪れ、献花と昼食のあと講演会。

演題は「父・江國滋を語る」、講師は作家・江國香織氏。聴き手は作家・協会副理事長、出久根達郎氏。そして好評の近郊の文学館めぐりは、三島市の「大岡信ことば館」を来訪し常設展と企画展「ますむらひろしが描く宮沢賢治の世界」を観覧の後、帰路についた。

3) 著作権思想普及セミナー支援

毎年、一般・教職員・図書館職員・美術館博物館等職員・行政職員などを対象に全国で実施される文化庁主催の「著作権セミナー」に協力し、資料や講師派遣の案内を文化庁、教育委員会、商工会議所などに送った。今期も著作権教育連絡協議会や著作権の各勉強会に参加して情報を収集し交流につとめた。これらを活かして、著作権思想の啓蒙のための支援プログラムを研究、用意していきたい。

2 データベース事業

ホームページ上で声明文・要望・公開情報を更新、発信し広報につとめた。また、講演会等の活動情報や協会編纂物の告知、会員作家のブログや文芸関連のサイトなどHPへのアップデートを更新中である。10月には協会のデータ管理サーバーを別会社に移行し、よりセキュリティの高いシステムを確保できている。

今期もコンテンツ・ポータルサイト運営協議会に参加し、ポータルサイト「JAPACON」による海外に向けてのコンテンツ発信に協力した。

3 編纂事業

1) 文藝年鑑の発行

「文藝年鑑2015」を編纂し新潮社より発刊した。編纂委員会においては、文芸「概観」のとくに海外文学の執筆者の見直しや選定について協議をし、改訂を加えた。また、海外文学賞の欄を横組みにするなど、装丁のマイナーチェンジにも心がけた。販売実績の伸び悩みが長く続いており、販路拡大の方策が課題である。

2) 文芸アンソロジーの発刊

今期の年次アンソロジーは、以下の3冊を編纂し刊行した。

「文学2015」4月23日 講談社発行 定価3,500円（税別 以下同）

編纂委員／川村 湊 島田雅彦 富岡幸一郎 中沢けい 沼野充義

「短篇ベストコレクション 現代の小説2015」6月15日 徳間書店発行 定価740円

編纂委員 川村 湊 清原康正 杉江松恋 森下一仁

「ベストエッセイ2015」6月25日 光村図書発行 定価2,000円

編纂委員／川村 湊 角田光代 林 真理子 藤沢 周 町田 康 三浦しをん

前期休刊の「時代小説」アンソロジーは、2016年より「時代小説ザ・ベスト」文庫版として、集英社より刊行の予定。

また、過去の「文学」年次アンソロジーから、40年間の現代文学を再編纂した、「現代小説クロニクル」〈編纂委員／川村 湊 佐伯一麦 永江 朗 林 真理子 湯川 豊〉の刊行を2014年10月より刊行を開始したが、全8巻のうち後半4巻を以下の通り刊行できた。

「現代小説クロニクル 1990～1994」4月10日 講談社発行 定価1,700円

「現代小説クロニクル 1995～1999」6月10日 講談社発行 定価1,700円

「現代小説クロニクル 2000～2004」8月10日 講談社発行 定価1,700円

「現代小説クロニクル 2005～2009」10月10日 講談社発行 定価1,700円

「現代小説クロニクル 2010～2014」12月10日 講談社発行 定価1,700円

3) 編纂物の海外寄贈

現代日本の文芸を理解してもらうために、2015年刊行の「文藝年鑑」「文学」「短編ベストコレクション」「ベストエッセイ」の協会編纂物をセットにして、海外各都市の日本文学、日本文化研究センター、大学や教育機関など50か所に寄贈した。寄贈先を特定するにあたり、会員らからの聞き取りで活動の情報を得られたところを優先した。

4 文学モニュメント運営事業

静岡県御殿場の富士霊園内にある「文学碑公苑」および「文學者之墓」は、自然のなかを散策し文學者の墓碑巡りができる貴重な文学モニュメントである。今期もこの協会の誇るべき公苑の保全整備につとめ一般に公開した。「墓前祭」は文學者支援委員会・出久根達郎委員長、山田隆昭副委員長が出席して、10月1日に執り行った。本年は新たに26名の碑銘が刻まれ、現在、文芸家813名が眠る公苑となっている。1969年の設立以来、「文學者之墓」は8基が建てられ、現在、墓碑は残り20数名となり、来期からの増設計画を具体的に進めている。また、公苑の四季折々の風景写真などをストックし、案内冊子の改訂準備を進めている。第9期墓碑竣工時期に合わせ発行の予定である。

5 文芸家協会ニュース発刊事業

協会ニュースは、2月・8月を除き年10回発行して理事会報・事業活動報告等について会員へ情報を提供開示した。5月号に「総会資料1.2」、7月号に「各都市巡回イベント 第6回〈福井〉」報告、12月号に「各都市巡回イベント 第7回〈仙台〉」報告、また1月号に「税のお知らせ」を制作し同封した。また、5月号に「作家の終活」と題して取材企画を掲載、反響があり不定期連載の予定。

6 障害者等支援事業

障害者等の支援を目的とする「拡大写本」、「録音図書」などの作成に利用する著作物に関して、無償での許諾事業をおこなった。また、ボランティア団体、図書館協議会、などが主催するセミナーや勉強会に参加して障害者支援事業の調査研究をすすめた。

第一歩として5月9日に、出版ユニバーサル・デザイン研究会との共催で、「小さな文字の中にある物語」を開催。講師は鳥海 修（字游工房代表）で、書体デザインの実技講座と障害者にとって読みやすい書体について。障害者だけでなく高齢者にも優しい読書環境が求められる時代に、実作者や協会が支援できることの調査研究を図りたい。

公益事業2 著作権管理事業

1 著作権管理事業

著作物の二次利用の許諾事業収入は、教育分野は堅調であり、収支差額としては黒字となる見込みである。また、ファクシミリや電子メールによる「許諾伺い」は著作権者、申請者ともに好評であり、より効率化できる工夫を続ける。今後の課題は、委託をいかに増やしていけるかであり、会員で委託のない方への呼びかけと、著作権管理は協会にお任せ下さいという積極的な広報が重要であり、具体策を探りたい。

今年の新年賀春交歓会は1月8日に都市センターホールで開催。昨年よりも参加者が多く賛助会員・著作権関係団・実務担当者と理事たちとの和やかな交流の場となった。

著作権思想の普及活動、そして地方会員との交流を図るため各都市を回る「文藝巡回イベント」は、以下のように今期も2回開催した。また、講演翌日に開催地の近隣の文学館を巡るレポートも継続しており、掲載したニュース誌面は好評である。

各都市巡回文藝イベント

【第6回】福井 6月27日 シンポジウム「文学館の現在と将来」

パネラー 椎名誠（作家・旅する文学館）辻原登（作家・協会常務理事）今川英子（北九州市立文学館館長） 進行 関川夏央（作家・協会常務理事）

【第7回】仙台 11月29日 講演と朗読「満身創痍の文学」

ゲスト 原田宗典（作家）檀ふみ（女優・エッセイスト） 進行 関川夏央（作家・協会常務理事）

2 補償金等受け取りおよび分配事業

協会の分配事業のひとつ、一般社団法人 私的録画補償金管理協会（SARVH）は平成27年3月末に業務を廃止、清算は完了している。

一般社団法人 私的録音補償金管理協会（SARAH）は、平成25年度からの補償金分配が延期されている。JEITA（電子情報技術産業協会）経由のメーカー5社が補償金の単価を独自に変更したためであり、再分配の煩雑化を避けるための措置である。

教科書補償金等は、平成27年度7月に各教科書会社へ請求。平成26年度分（3割相当）と平成27年度分（7割相当）を今年度中に委託者へ分配。複写使用料は、平成26年度分が平成27年9月に入金。平成27年度分とともに次年度に委託者へ分配する。

公益事業3 調査研究事業

1 広報・提案事業

権利者8団体が参加し、三田副理事長が会長を務める「著作権者による権利者不明作品を考える勉強会」は、昨年9月に発足して協会事務局で月次の会合を重ねてきたが、3月7日「オーファンワークス問題解消の道なり」と題して公開シンポジウムを開催。権利処理の裁定制度構想など中間まとめを発表した。研究事業として継続していく。

文化庁の「文化審議会著作権分科会」に永江理事、経済産業省の「出版物の流通促進に向けた契約の在り方に関する検討会」に中沢理事らが委員として出席、協会公益活動の広報につとめた。事務

局員も関連団体や協議会に積極的に参加して、協会としての立場や要望の発信につとめた。

2 「著作権評価に関する意見書」作成事業

今期も著作権継承者の要請に応じて、文芸作品の「著作権評価に関する意見書（評価意見書）」を作成して、公正な著作権の評価をおこなった。今後の課題として、評価意見書作成の依頼や問い合わせには、時間の猶予のないことも多く、精査の必要とかなりの時間を要すること等、協会ニュースやホームページなどでの広報を充実させていく。

3 連絡仲介事業

著作物利用の問合せや依頼に対し、調査および著作権者との仲介活動をして円滑な著作物利用の実現につとめた。今期も、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所からの「現代日本語書き言葉均衡コーパス」に公開目的のサンプルデータ提供の依頼を受けて連絡仲介をおこない、その収益を協会から日本児童文学者協会、日本児童文芸家協会、日本推理作家協会、日本ペンクラブの各団体へ送金分配した。

大正大学のインターシップ制度とタイアップして、表現学部3人の学生を8月～9月にかけて1名ずつ迎えた。著作権管理部の許諾実務を研修してもらい、また講師を呼んでのレクチャー、協会行事への参加など体験してもらった。

協会会議室の公益提供の呼びかけには、脱原発社会をめざす文学者の会、権利者による権利者不明作品を考える勉強会、文芸出版懇談会等、利活用が広がっている。

以上
